

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 10	福山市立旭小学校
最終更新日		2019年(平成31年)4月10日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力、コミュニケーション能力、やりぬく力、思いやり
・学校課題を的確にとらえ、教職員のみならず、児童・生徒にも課題、目標を自覚させ、効果的に取り組んでいる。 ・学校としての取組状況がよく分かり、達成状況も分かりやすい。 ・評価結果に基づく改善策も具体的に効果をあげている。	・基礎的・基本的な学力は向上が見られる。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や力量が育ちつつあるが、十分ではない。 ・自分の考えや思いを相手に伝えるコミュニケーション能力に課題がある。 ・相手を思いやる心ややりぬく力に課題がある。	めざす子ども像 (義務教育終了時の姿)	21世紀型“スキル&倫理観”を身に付け、自ら考え主体的に学ぶ子
		中学校区として統一した取組等	・東中学校区体育大会リハーサル交流会(校区小学6年生による参観) ・ESDの推進状況交流 ・校区小中学校合同授業公開(毎年各学校持ち回り)

III 自校

ミッション
『すべては子どもたちのために』失敗を恐れず、チャレンジするとともに、子どもにとって+になるか-になるかの自己判断ができ、将来の自分のビジョンを語る教職員のもとで自律した(自分で考え、判断し、実行する)児童を育成する。
学校教育目標
心やさしく、自ら学び、生きぬく力を持った旭っ子の育成
現状
<p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な学力は定着してきているが、根拠をもとに関係づけて説明する力等活用力に課題がある。また「読み取り」の力が弱く文章問題を解く力の育成が必要である。</li> <li>・体力向上に向けて組織的に取り組んできた結果、県平均以上の項目が81.0%となった。投力の向上も見られるが「瞬発力」「調整力」に今後も取り組む。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間児童とともにめあてを設定し、目的意識を持って学習に取り組むことが定着した。</li> <li>・目的を明確にしたペア学習・グループ学習を行うことが日々の授業で見られるようになったが、まだまだ指導者が説明する場面が多い、児童のつぶやきや行動・発言等が自由闊達に行われる授業改善に取り組んでいく必要がある。</li> </ul>

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	やりぬく力	思いやり	
めざす子ども像	低学年	○めあてを見つけ、興味・関心を持って追究している。	○友だちと話し合うことで、考えを深めている。	○時と場を考えた行動ができ、正しい判断力をもった言動をしようとしている。	○友だちとともに活動する楽しさを体感し、仲よく助け合おうとしている。
	中学年	○自ら問題を見だし、見出した問題を興味・関心を持って追究している。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、学びを深めている。	○相手意識を持ち、自分の言動をコントロールし、場に応じた行動ができる。	○友だちのよさと自分のよさを知り、学級での自己の役割を自覚して仲良く助け合っている。
	高学年	○自ら課題を見つけ、生活経験や学習経験を基に、見通しを持って追究する学び方を身につけている。	○ペア学習・グループ学習・全体交流で相互に話し合う中で、論理的表現力を高めている。	○内的規範(自律)を持ち、学校や地域で場に応じたふさわしい行動ができる。	○友だちのことを思いやりながら自分の役割や責任を果たし、人のために役立とうとしている。
研究	教科等	理科(生活科)・特別活動			
	主題・内容等	自分の考えを生き生きと表現できる児童の育成 ～課題解決に向けて協働的な学びのある理科研究～			
めざす授業の姿	○児童が自ら課題を見つけ、解決していく授業 ○かかわり合うことで思考が深まる授業 ○学んだことを他の授業や生活に活かせる授業				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	力を入れた評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力を入れた評価	達成評価	総合評価
3	確かな学力 基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	★	継続	学習内容の確実な定着を図り、基礎・基本の学力、活用力を身につける。課 回  【総合評価指標】 年度末標準学力調査において全学年を全国平均以上	①「わかるうタイム」を毎月、チャレンジプリント(算・理)を毎日実施する。  ②自ら学ぶ授業づくりのために、 A「書くことで自分の意見をしっかりとめさせる活動」 B「効果的なペア・グループ活動」 C「考えを深める全体交流」を設定する。	算・理の単元末テストにおいて、70%以上の児童の割合を85%以上にする。  校内研究授業において、参観した教員からの肯定的評価をA・B・Cそれぞれ80%以上にす								
3	豊かな心 規範意識や自己有用感の育成	★	継続	9年間を見通した生徒指導の充実を図り、規範意識を高める。課  特別活動を推進し、自己有用感を高め、認め合い、高め合う児童を育てる。回 思 也  【総合評価指標】 年間30日以上欠席児童率を昨年より減少させる。	・児童主体の目標設定をさせ、行動化させる。 ・年間及び月ごとの生活目標を守らせることで、児童自らが規範意識を高める。  ・帰りの会でお互いのがんばりを認める場を設ける。 ・縦割り活動をそうじや児童会活動に取り入れ児童のつながりを深める。	・達成率90%以上(教師の見取り)  ・実施率100% ・児童アンケート90%以上  ・実施率100%								

3	<p><b>健やかな体</b></p> <p>主体的な健康・体力づくりの推進</p>	★	<p>継続</p> <p>運動に意欲的に取り組み、目標を持って体力づくりをする児童を育てる。<b>や 課</b></p> <p>【総合評価指標】</p> <p><b>2回目実施の体力テスト県平均以上の項目を85%以上</b></p>	<p>・毎時間の体育授業で、セット運動(ランニング3周→サーキット運動、ランニング3周→体操ストレッチ)を取り入れる。</p> <p>・休憩時間を月に1度以上、30分設定し、児童全員が外遊びをできる時間を確保する。</p>	<p>・実施率100%</p> <p>・実施率100%</p> <p>・児童全員が外遊びを行う。</p>											
3	<p><b>市民から信頼される学校</b></p> <p>保護者・地域が安心して任せられる学校づくりの推進</p>		<p>継続</p> <p>業務改善を進め、元気で子どもと向き合う職場環境をつくる</p> <p>(教職員の「やりがい」肯定的評価90%以上)</p>	<p>〇月45時間、年360時間を越えないよう、時間管理を確実に進行。</p>	<p>〇月45時間を超えない職員85%以上。</p>											

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。